

HSF 人間の安全保障出張講義①

「模擬国連セッション in 大妻中野 2015」

～難民・移民問題に対して国際社会は何をすべきか～

HANDBOOK

28JUL2015

OTSUMA NAKANO



H S F 出張講座① 「模擬国連セッション in 大妻中野 2015」 ～移民問題に対して国際社会は何をすべきか～ 実施概要

■開催日時： 2015 年 7 月 28 日（火）9:30～15:45

■議題：移民（International Migration）

■場所： 大妻中野高等学校 2階カフェテリア「アゴラ」
東京都中野区上高田2丁目3番7号 JR/メトロ中野駅より徒歩13分

■ファシリテーター：（1）佐藤安信 HSF 副理事長
東京大学教授 大学院総合文化研究科
UNHCR 法務官としてオーストラリアで、UNTAC 人権担当官としてカンボジアで EBRD 弁護士としてロンドンで各勤務。
（2）H S F 滝澤三郎理事
東洋英和女学院大学教授、元 UNHCR 駐日事務所代表
（3）チョウチョウソウ（Kyaw Kyaw Soe）氏
ミャンマー人難民でミャンマーレストラン経営者、ドキュメンタリー映画「異国に生きる」主演（<http://doi-toshikuni.net/j/ikoku/>）

■当日の流れ

09:00-09:30 受付

09:30-10:00 オリエンテーション

10:00-10:40 H S F 講義および質疑応答①佐藤安信氏

10:40-10:50 休憩

10:50-11:30 H S F 講義および質疑応答②滝澤三郎氏

11:30-12:10 講演および質疑応答③チョウチョウソウ氏

12:10-13:00 お昼休憩

チーム（4～6名／参加校混合チーム）毎にランチをとる。英語で自己紹介など。

13:00-14:00 ワークショップ

「難民・移民問題に対して国際社会が何をすべきか」チームで決議案を作成する。
（提案書は英語で作成／参加生徒は予め自分の決議案を作成してくる）

14:00-15:20 各チームによるプレゼンテーション（英語で実施／途中休憩あり）
チーム毎に提案書の内容を英語で発表／他チームによる質問・意見
ファシリテーターによるアドバイス

15:20-15:45 クロージング

ファシリテーターによる講評／参加者全員による写真撮影

* ワークショップの時間帯に、引率の先生向けの質疑応答・懇親会・学校案内等も企画しております。

<アクセス>



<参加学生への諸注意>

- 当日の受付は 9:30 までにお済ませ下さい。
- セッション中は携帯電話の電源をお切り下さい。校内での携帯電話のご利用はご遠慮下さい。(緊急時を除く)
- 本校のカフェテリアには、飲料やコンビニのパン・弁当の自動販売機のみ設置されていますが、売り切れてしまう場合もあります。予め、各自で昼食はご持参下さい。
- 2階（地上階）以外の立ち入りはご遠慮下さい。
- 許可のない校内での写真撮影はご遠慮下さい。(個人間で同意のある写真撮影は可)
- セッションの全体写真を HSF および大妻中野中高の HP に掲載させて頂くことがございます。個人が特定できない程度の写真です。撮影が不可の場合は、当日の受付または担当教員大西までご一報下さい。

はじめに

■模擬国連とは

模擬国連は、いまから遡ること約 90 年、1923 年にアメリカのハーバード大学にて開催された「模擬国際連盟」にその原点があります。国際政治の仕組みを理解し、国際問題の解決策を考える過程を体験できることから、教育プログラムとしても高い評価を受け、現在では世界中の大学・高校において授業に採用されるほか、学生の課外活動としても楽しまれています。

模擬国連を端的に説明すると、参加者一人ひとりが一国の大使（外交官）となり、国連をはじめとした国際機関などで行われている様々な会議をシミュレートする活動です。交渉力・論理的思考力・英語力など様々なスキルを必要とされるため、「知の総合格闘技」ということができます。

<会議前の活動>

一つの国際問題に焦点を絞って国際会議をシミュレーションするにあたり、まず参加者は 担当国を 1 つ選びます。担当国が割り振られた参加者は、大使として会議に臨むことができるように、議題となる国際問題や担当国の内政状況・外交政策などについて調べます。これを「リサーチ」と呼び、リサーチの補助として「Background Guide」（通称 BG）と呼ばれる、議題の背景知識が簡潔に記された解説書が配布されます。この BG を読むことからリサーチは始まると言っても過言ではありません。

しかし、この BG を読むだけではリサーチは不十分です。大使として模擬国連会議に臨むためには、国際問題を理解するだけでなく、担当国について調べることで自国のスタンスを定めたあと、会議ですべき提案の内容や、会議中の振る舞い方を考えなければなりません。そこで参加者は、専門雑誌・新聞縮刷版・論文・書籍や実際の国際会議の決議文書などを利用してさらなる情報収集につとめ、担当国の立場から議題への知識を深め、会議中の提案や行動を自由に考えます。

<会議中の活動>

実際の会議でも模擬国連会議でも、会議を通してなされる意思決定は成果文書として形に残されます。そこで参加者は、担当国の大使として自国にとって有利な成果文書が残るよう様々な提案を行い、それらへの支持を集めるために行動します。こうした行動には、会議場の大使全員に向けたスピーチや他国との個別交渉などがありますが、各国の主張には様々な利害関係が絡み合っており、参加者は国際問題の複雑さや、解決することの難しさを実感することとなります。会議の終盤には、成果文書案は採決にかけられ、過半数の賛成、もしくは 3 分の 2 以上の賛成が集まった場合、採択されます。採択された成果文書は国際社会の正式な意思決定として扱われ、非常に大きな意味を持つこととなります。

<会議後の活動および会議を通じて得られるもの>

会議が終了すると、担当国大使の立場ではなく個人としての立場に戻って会議の反省を行います。これは「レビュー」と呼ばれます。レビューの形式は様々ですが、大使として会議中の提案や行動の善し悪しを評価することで、担当国の立場から国際問題を捉えるこ

との難しさや自分と違う視点を持つことの価値に気付くことができます。また個人としての立場に戻って国際問題を理解し直すことで、国際問題への理解をさらに深めることもできます。このように、リサーチからレビューまでの流れを経験することで、はじめて1つの会議が完結します。自分で調べ、考え、実践するだけでなく、自分で反省することによって、社会で必要となるような能力を身につけることができるのです。

(模擬国連会議全日本大会HPより抜粋)

■模擬国連セッション in 大妻中野 2015 ですること

「模擬国連セッション in 大妻中野 2015」では、模擬国連に関心がある学生や模擬国連大会に初めて挑戦しようと考えている高校生を対象とした、模擬国連大会に参加する前段階のワークショップ（基礎編）です。

通常の模擬国連大会では、①各チームが各国の代表となり自国が提案した決議案を作成し、②各国が交渉の中で妥協や政策の統合を図りながら合意を得てグループとしての決議案をつくりあげ、③一定数以上の賛同を得た決議案が本会議で採択される、④会議後、担当国大使の立場ではなく個人としての立場に戻って会議の反省（レビュー）を行うという、4つのプロセスを取ります。今回の模擬国連セッションでは、参加者全員が日本大使という前提で①の日本代表としての決議案作成のみを行います。

議題：移民 (International Migration)

【セッション前の準備】

参加者は、日本大使という立場から、移民についての国連会議で主張する決議案（英文）を各自で作成する。（事前課題）

【セッション前半：ファシリテーターによる講義】

模擬国連の参加者は会議前のリサーチが不可欠である。セッションの前半は、リサーチの補助としてファシリテーター3名による講義を受けることで議題「移民」についての知識や理解を深める。

【セッション後半①：チーム毎のワークショップ】

参加者はチームに分かれ、チームの中で各自の決議案をすり合わせ、一つの決議案（英文）を作成する。

【セッション後半②：チーム毎の決議案プレゼンテーション】

各チームの代表全員で、自分たちが作り上げた決議案についてプレゼンテーションを英語で行う（プレゼンの最後に日本語で補足説明も可）。プレゼン毎に、ファシリテーターから一言ずつコメントを頂く。全てのプレゼンが終了したあとに、ファシリテーターから優秀チームと最優秀チームを決めて頂く。

【通常の模擬国連大会のプロセス】

模擬国連セッション in 大妻中野
2015 では、日本大使としての
決議案作成のみをおこないます

① チームが各国の代表となり自国が提案する決議案を作成

- ② 各国が交渉の中で妥協や政策の統合を図りながら合意を得てグループとしての決議案をつくる
- ③ 一定数以上の賛同を得た決議案が本会議で採択される
- ④ 会議の反省（レビュー）

■ HSFとは…

今回の模擬国連セッションでは、NPO法人「人間の安全保障」フォーラム（HSF）からファシリテーターを派遣して頂いたり、会議運営のご助言を頂いたり、様々にご協力いただいております。以下の文章は、HSFの公式HP（<http://www.hsf.jp/top/hsfとは/>）より、HSFの紹介文です。

なぜ今「人間の安全保障」が重要なのか？

みなさんは「安全保障」という言葉を聞いたとき、「それは国家や政府の行うべき役割」であったり、「海外で起こっている暴力紛争やテロ、難民、食糧危機、自然災害など」と思い浮かべるでしょうか？ または、自分自身と関係ない事柄として、普段は意識していないかもしれません。

しかし、2001年の9/11に起こったアメリカ同時多発テロ事件や、2007年から始まった、サブプライムローン問題、2008年のリーマンショックから現在に続く世界金融危機、そして2011年3/11に発生した東日本大震災一。これらの事態は、まさに今、実際に、私たちに非常に近いところで、生命や生活を脅かされる危機的な状況が発生していることを示しています。

このような状況の中、グローバル化、相互依存が深まる今日の世界においては、従来の「国家の安全保障」という考え方から、人間の生存、生活、尊厳を脅かすあらゆる種類の脅威を包括的に捉え、これらに対する取り組みを強化しようとする「人間の安全保障」という新しい考え方が広まって来ています。

私たち、NPO法人「人間の安全保障」フォーラム(HSF:Human Security Forum)は、東京大学大学院総合文化研究科の「人間の安全保障」プログラムの教員・学生の有志が中心となり、日本で初めて「人間の安全保障」を実現するための活動を行うNPOとして2011年4月よりスタートしました。

理論から実践へ。

HSFは、大学発のNPOであることを活かし、個人の生存、生活、尊厳を脅かすさまざまな脅威——貧困、飢饉、感染症、災害、環境破壊、紛争、組織犯罪、薬物、人権侵害など——に対し、国際関係論などの社会科学、自然科学や地域研究、人文科学など多様な観点からアプローチし、社会的な活動を行なっています。

ひとりひとりの「安全」「安心」なくらしを守り、人間同士の「尊厳」を認め合いながら、共感とつながりによる平和を大切にするために「人間の安全保障」の確立に貢献します。

Draft Resolution(DR／決議案)

■Draft Resolution(DR)

議題となっている問題に対して、自分が代表する国の解決案を書いた決議案のことです。各国の代表は自国が提案する政策を文言として持ち寄り、グループの中などで合意に達したものをDRとしてまとめていきます。それが投票にかけられて、採択に必要な国数の賛成が得られれば晴れて性施肥黄な国連決議として採択されます。

今回の模擬国連セッションでは、参加者全員が日本大使であるということを前提に、事前課題として各自が自分のDRを作成します。セッション当日は、ワークショップにてチーム毎に自分のDRを持ち寄り、互いの矛盾点を排除しながら統合を図り、チームとしてのDRを完成させていきます。

【Draft Resolution(DR)の構成】

DRには「主語」「前文」「主文」の3つの部分があり、全体で次のような一つの文章を成しています。

- ①主語：〇〇国代表は、
- ②前文 (Preamble Clause)：～（という前提）を確認し、～を想起し、～を懸念し、～を確信し、…
- ③主文 (Operative Clause)：～（という政策）を奨励する。～を要請する。～の重要性を強調する。…

DR作成で重要なのは、「前文と主文は必ず対応関係がある」ということです。事前課題で決議案を作成する際には、基本的に前文と主文をセットにして文言を準備しておくといよいでしょう。前文に議題の問題に関する現状や理想、主文に具体的な政策を示します。

「前文：現状・理想→主文：政策」

(1) 前文と主文の役割の違い

自国の主張の中で最も重要な箇所が主文、その前提となる箇所が前文というイメージを持っておくといよいでしょう。国際会議でより重要なのは現状を知ることではなく、DR作成国が提案する具体的な政策を知ることです。現状分析は少なめにし、解決策に重点をおき作成してみましょう。

(2) 前文・主文の具体的な内容

前文・主文の基本的な役割の違いについて把握したところで、より具体的に前文・主文にどのような内容が含まれるか確認しておきましょう。前文、主文に書かれる内容は、およそ以下のように分類できます。

- 前文：特定の政策を実施・提案する上での事前事項
 - A. 過去の文書・条約・国際的取り組みなどの想起・支持
 - B. 現状の確認、または憂慮（問題意識）
 - C. 問題解決への方向性の提示（理想）
- 主文：会議の意思決定の内容や行動の要請など政策そのもの
 - D. 問題解決への方向性の提示（理想・政策）
 - E. 特定の政策や行動への見解（支持 or 非難）の表明（政策）
 - F. 国際機関・加盟国への行動の要請・意思決定（政策）

(3) 実際の Draft Resolution (DR) の例

以下では具体的に前文・主文の決議案の例を日本語で掲載します。「前文：現状・理想→主文：政策」の形があてはまっていることを確認し、自分が決議案を作成するときと同じ枠組みが使えることを確かめてみましょう。

★例 1：生物多様性条約締約国会議

前文

生物の多様性に関する条約およびバイオセーフティに関するカルタヘナ議定書を想起し（Recalling）、【現状・A】

途上国の遺伝資源の一方的な流出を防ぐ国際的な枠組みの構築が早急に求められていることを確信し（Convinced）、【方向性の提示・C】

主文

遺伝資源の衡平な利益配分を実現するための具体的で拘束力のある国際制度の創設の必要性を確認する（Confirms）。【特定の政策の支持・E】

★例 2：プライマリ・ヘルスケアに関する世界保健機関総会

前文

プライマリ・ヘルスケアの重要性と、地域住民の医療参加や政府と他部門との協力の必要性を謳ったアルマ・アタ宣言を想起し（Recalling）、【現状・A】

発展途上国において、国の情勢や環境の悪化、感染症の蔓延などにより公衆衛生や人の健康が損なわれていることに遺憾の意を表し（Deeply regretting）、【問題意識・B】

主文

途上国のパンデミックに対する脆弱性の克服を目的とした、先進諸国や各国際機関、NGO などによる長期的かつ総合的な保健・衛生に関する支援の重要性を確認する（Confirms）。 【方向性の提示・D】

★例 3：麻薬犯罪取締に関する国連総会

前文

国際社会全体での麻薬需要関連対策に関する政策の情報共有が、各国家の各々の状況に応じた政策実施に対する一助となることを強調し（Emphasizing）、【方向性・C】

主文

国連加盟各国及び国連薬物犯罪オフィス（UNCOD）に、麻薬原料生産国での代替開発の成功に向けた継続的・包括的な支援を要請する（Calls upon）。

(4) Draft Resolution (DR) の書式

DR は所定のフォーマット上で、定められた書式に則って作成することが求められます。基本的なルールとして以下の 4 点をまずは抑えましょう。

- ① 前文の動詞は現在分詞の形（-ing）に、主文の動詞は三人称単数現在形（-s）にする
- ② 主語とそれぞれの文の最初の動詞は斜体とする
- ③ 前文はピリオド、主文はセミコロンで区切り、最後だけピリオドで終わる（決議案が全体として一つの文になっていることに留意）
- ④ 主文には番号をふる

MODEL UNITED NATIONS



Draft Resolution

28 July 2015

Original: English

International Year of Family Farming, 2014

Delegation of JAPAN,

①主語は斜体にする。

②前文の冒頭は基本的に-ing 形で始め、斜体にする。

Affirming that family farming and smallholder farming are an important basis for sustainable food production aimed at achieving food security ,

③前文はコンマで区切る。

Recognizing the important contribution that family farming and smallholder farming can play in providing food security and eradicating poverty in the attainment of the internationally agreed development goals, including the Millennium Development Goals ,

④主文の冒頭は-s(3人称単数現在形)で始め、斜体にする。

1. *Decides* to declare 2014 the international Year of Family Farming ;

⑤主文には番号をふる。

2. *Invites* the Food and Agriculture Organization of the United Nations to facilitate the implementation of the International Year of Family Farming, in collaboration with Governments, the International Found for Agricultural Development, the Consultative Group on International Agricultural Research and other relevant organizations of the United Nations system ;

⑥主文はセミコロンで区切る。

3. *Encourages* Member States to undertake activities within their respective national development programs in support of the International Year of Family Farming .

⑦最後はピリオドで終わる。

〔事前課題：DRを手書きで作成してみましょう。〕

MODEL UNITED NATIONS



Draft Resolution

28 July 2015

Original: English

“An international agreement for international migration”

Delegation of JAPAN,

(4) Draft Resolution (DR) でよく用いられる動詞

1. 前文

A. 過去の文書・条約・国際的取り組みなどの想起・支持

recalling... ～を想起する

expressing its satisfaction... 満足を表明する

noting its satisfaction... 満足表示する、満足を特筆する

approving... ～に賛成する、是認する、承認する

desiring... ～を強く望む、～してほしいと願う

B-1. 現状の確認

弱 *referring...* 言及する、触れる

↑ *aware...* ～に気づいている

taking note... ～に留意する、心に留めておく

noting... ～に注意する、注目する、気づく

taking into consideration=taking into account... ～を考慮する

↓ *recognizing...* ～を認める、認可する、承認する

強 *believing...* ～だと信じている、思う

B-2. 政策や行動に対する憂慮の表明

弱 *concerned...* 心配している、気遣っている

↑ *alarmed by...* ～に不安にさせられている、不安だ

noting with deep concern... ～に深い憂慮を抱いて言及する

noting with regret... 遺憾に思いながら～に言及する

↓ *regretting...* ～したことを残念に思う

強 *deploring...* ～を非難する、遺憾に思う

C. 問題解決への方向性の提示

convinced... ～を確信している、納得している

affirming... ～だと断言する、確認する

reaffirming... ～と再び断言する、再確認する

emphasizing... ～を強調する、重要視する

2. 主文

D. 問題解決への方向性の提示

弱 *draws attention to...* ～に注意を引く
↑
takes note... ～に注目する
notes... ～に注意する、気づく
reminds... ～に気づかせる、思い起こさせる
considers... ～を検討する、熟慮する
affirms... ～だと断言する、確認する
reaffirms... ～だと再び断言する、改めて主張する
↓
emphasizes... ～を強調する、重要視する
強 *stresses...* ～を強調する、～を強く主張する

E-1. 政策や行動に対する支持の表明

expresses its appreciation... 正しい評価をする
endorses... ～を是認する、支持する、ほめる
approves... ～に賛成する、是認する、承認する
confirms... ～の間違いないことをはっきりさせる、確かめる、承認する
supports... ～を支持する

E-2. 政策や行動への非難

regrets... ～したことを残念に思う
deplores... ～を非難する、遺憾に思う
condemns... ～を責める、咎める、非難する

F. 問題解決のための具体的な勧告

弱 *recommends...* ～することを勧める、奨励する
↑
invites... ～するように勧める、依頼する
encourages... ～するように励ます、奨励・促進する
↓
requests... ～を頼む、懇願する、要請する
↓
calls upon... ～するように呼びかける、訴える、要請する
強 *urges...* ～するように強く促す、強く奨励を主張する

< 参考資料 >

別紙資料貼り付け

別紙資料貼り付け

< 参考・引用文献 >

模擬国連会議全日本大会HP

HSF 公式HP

第8回全日本高校模擬国連大会資料『決議案作成の手引き』

OECD 編／濱田久美子訳 2010 年 『よくわかる国際移民～グローバル化の人的側面』 明石書店

